

概 要

質疑応答では、市外の高校に通う高校生は参加対象か、また事業の予算額について。また牧之原市では住民参画の意識が根付いているのか、事業を進めるためどのように職員のやる気を醸成しているかなどの質問があった。



所 見
・
成 果

今回の視察から、さいたま市が各種施策を実施する前にどのように住民の意見を取り入れるかの手法を学ぶことが出来た。

牧之原市では主要政策を実施する前に住民の意見を聞く取組が定着している。その場合は市民ファシリテーターがメインとして、市職員がサブのファシリテーターとして関わっている。例えば牧之原市では市立小学校8校・市立中学校2校を再編して新たに2つの義務教育学校をつくる計画がある。住民の意見を丁寧に聞いたから大きな反対運動がないのだと考える。さいたま市でも主要な施策を実施する前の住民の意見を聞く場として市民ファシリテーターと市職員が関わるワークショップを選択肢として示したい。また「地域に誇りを持つ」「将来、地域を担う」「地域の課題解決に貢献する」人材を育成するためにさいたま市でも地域リーダー育成プロジェクトの実施を提言したい。プロジェクトに参加した市民ファシリテーターが地域に愛着を持ち、自治会総会、避難所運営訓練など地域活動に積極的に参加するように促すことができると考える。

<p>所見 成果</p>	<p>また、牧之原市では市民参画の意識が醸成されていると感じた。その大きな理由は①情報の共有②市民参加の推進③市政運営を柱とする自治基本条例が制定されているからだを考える。</p> <p>さいたま市では最近、主要施策に対する大きな反対運動が続いていることから、住民参画の取り組みを一層推進する必要がある、会派としても「自治基本条例の制定」の検討を取り上げていきたい。</p> <p>今後、視察で得られた知見を本議会や委員会での質問に繋げていく。</p>
<p>会派基本政策</p>	<p>15. 市民協働・公民学連携による地域課題の解決</p>
<p>会派 プロジェクト</p>	<p>「市民参画推進」</p>
<p>備考</p>	<p>購入書籍：「パートナーシップが創るこれからの地方自治」 価格：税込み3,000円 活用方法：牧之原市での協働の取り組みの詳細を学んだ。</p>